

2024年6月5日 Vol.224

長期低迷株見直しの動きに注目

全体相場は依然として上値が重く調整気味ながら、長期低迷状態のグロース銘柄には強含みの展開が見られます。その結果、グロース250指数は5月30日の安値594ポイントから本日は633ポイントまで6.5%上昇。久しぶりに上向き展開が見られます。1-3月までは強気の見方が後押しとなり、日経平均が一時4万円台に乗せるなど指数への関心が高まりました。指数の上昇をリードしてきた日本の半導体銘柄は米エヌビディア株が1150ドル台乗せとなり高値更新が続く中で、このところは概ねやや頭重い展開となり、調整傾向が見られるようになってきました。4月以降の株式市場には強気の声とごく一部の少数派の弱気の声があり、微妙な均衡を保ってきましたがリード役を務めてきた半導体関連銘柄がPER水準を市場平均以上に高めてきたこともあり、やや警戒感が台頭。市場では半導体銘柄に代わる銘柄探しをしているとも言えます。その候補がこれまで低PBRで評価されてきた高島屋や高配当利回りながら人気薄だったJT、スポーツ用品のヨネックス、アシックス、ミズノなどの消費関連銘柄や一連の銀行株などとなってきたとの捉え方ができそうです。

更に、ここに来て注目したいのは長期にわたり、調整してきた銘柄の反転上昇の動きです。成長期待があったにも関わらずバリュエーションの高さがネックとなり、調整を余儀なくされてきたグロース銘柄は数多く、IPO後に大きく人気化して高値をつけてからの調整を余儀なくされてきた銘柄にも関心が向かってきたとも考えられます。その一つがAI×オンライン教育のすららネット(3998)で、同社株は2017年12月にIPO(公開価格2040円、5分割後換算408円)。初値は4345円でその約1年半後に2565円(5分割実施後の換算株価513円)という安値をつけました。その後、GIGAスクール構想がスタートしたタイミングでのコロナ禍で一躍脚光を浴びて9350円(5分割実施後)という高値がついたのですが、その後3年4か月もの間、右肩下がりの調整を続けてきました。この間の業績は減益基調ではありましたが比較的高水準を維持。財務内容も健全な推移を辿ってきたものの、株価はグロース市場へ関心が向かわずに低迷し今年の2月には391円と言う安値までついてしまいました。ところがその低迷状態の株価に変化が訪れ、5月28日には477円のストップ高。その翌日も発行済み株式数を上回る買いを集め、一時ストップ高となるなど大きく上向いてきました。このような事例が出てくると長期に株価下落傾向が続く銘柄、例えば、かつては市場の話題を集めたようなサイバーダイナミクス(7779・G)などにも反転の兆しが出てきていますし、昨年6月に高値をつけたマイクロアド(9553)のように、成長期待のある調整中のグロース銘柄にも関心が向かう可能性があります。実際にはプライム銘柄やスタンダード銘柄にもそうした長期株価低迷銘柄はありますので皆様も吟味して頂きたいと思います。

(東京IPOコラムニスト 松尾範久)